

送辞

冬の寒さも和らぎ、頬を撫でる優しいそよ風の中に春の訪れを感じるこの頃となりました。旅立ちの季節を迎え、今日の良き日に修猷館高校を卒業される先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業という新たな世界の入り口に立ち、節目を迎える先輩方の心には、修猷館での様々な思い出が懐かしく、昨日のことのよう思い返されていることでしょう。新型コロナウイルスの影響が残る中、入学された先輩方はその制限の中でも勉強や部活動、大運動会や大文化祭を通して、多くの出会いや場面を経験されてきたことと思います。その全ての経験が、先輩方の何物にも代えがたい、大切な宝物になり、先輩方の未来を照らす揺るぎない指針となると確信しています。

私たち在校生にとって、先輩方の存在はとても大きなものでした。私が先輩方と多く関わるようになったのは去年の夏、大運動会が始動した頃です。それまで私は先輩方と関わる場面がなく、自分自身が大幹としてやっていけるか不安を感じていました。そんな私を先輩方は温かく出迎え、広い心で接して下さいました。競技においても、先輩方は高い目標を掲げて、役職に関係なく仲間を鼓舞し力強く支え、私たち一二年生に大運動会の熱さ、修猷生の本気を教えてくださいました。先輩方のご活躍があったからこそ、極めて高く遠く、今まで超えることができないと思われていた雲をも凌ぐ大運動会を経験させていただきました。どんなことにも全力で取り組み、誰に対しても真剣に向き合う先輩方は、私にとって憧れであり誇りであり、感謝してもしきれないほどです。私たちはそんな先輩方の背中を追いかけるばかりの日々でしたが、今度は先輩方に代わって、修猷館の伝統と気概を守りつつ、修猷館をさらに盛り立てていきます。

先輩方はこれからそれぞれの道を歩み、目標に向かって進んでいかれることと思います。これからの社会は、多様性が尊重され、様々な価値観が共存し、あたりまえだったものがなくなり、新たなものが次々と現れるでしょう。そのような複雑な社会で流れるように過ぎる時の中でも、先輩方は、修猷館で培った逞しい精神で、揺らぐことなく、華々しくご活躍されると信じています。

最後になりましたが、先輩方の門出をお祝いし、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。送辞とさせていただきます。

令和七年 三月一日 在校生代表 下釜大地